

◆特別なニーズに配慮した母子健康手帳の活用についてのワークショップを開催◆

「特別なニーズに配慮した母子健康手帳の活用」のテーマで、2021年3月3日にワークショップをオンライン（Zoom）で開催しました。参加者は国家公衆衛生局2名、ルアンダ州保健局2名、ルアンダ州内の各市保健局フォーカルポイント9名、ダヴィ・ベルナディノ小児病院4名、ベンゲラ州保健局1名、ウアンボ州保健局1名、ローカルスタッフ3名、日本人専門家5名の27名が参加しました。障害主流化の取り組みと多様性への適応を検討すべく、特別なニーズを持つ母親や子供に対して母子健康手帳がどのように活用できるか、その可能性について協議しました。また、ワークショップでは、多様性への配慮の概念を共有し、日本における母子健康手帳を通じた特別なニーズへの配慮例等の取り組みの事例を紹介しました。その後、アンゴラでこの点に関してどのような取り組みが可能か、参加者で協議し検討しました。ポストイット機能を使って視覚的にも分かりやすく工夫して、画面共有するなどし、参加者間で活発な意見交換が行われました。

時間	議題	内容
9:00-9:10	自己紹介	
9:10-9:20	ワークショップの概要	目的、プログラムの共有
9:20-9:40	多様性への配慮とは？	イラスト（車いすの人が階段の前で困っている絵）の女性が抱えている問題を出し合い、個人と社会のモデルに分類し、ニーズについて検討
9:40-10:00	日本における母子手帳を通じた特別なニーズへの配慮の例の紹介	日本の多言語に翻訳された母子手帳、低出生体重児用やダウン症児用の手帳、電子母子手帳について紹介 特別なニーズを早期発見し介入するための日本の取り組みの紹介（新生児訪問、乳児健診）
10:00-10:45	アンゴラにおける取り組みの可能性について協議	アンゴラでの特別なニーズとは？ 特別なニーズに対してアンゴラでできる取り組み
10:45-11:00	閉会	学びの共有



現時点においてアンゴラでできる可能性がある取り組み

- 手帳を正しく記録することで、特別なニーズに早期に気づく
- 小児病院にて低出生体重児用の成長曲線を試行する
- 適切なコミュニティヘルスワーカー（ADECOS）を選定し、地域におけるニーズを早期発見
- 研修とモニタリング&スーパービジョン（M&S）を通じて健診の質を向上させる
- 適切な検査ができるよう保健施設の資機材を充実させる